



令和5年1月13日(金)

後期後半が始まって1週間

令和5年がスタートし、もう半月が過ぎようとしています。早いですね。年が明けても巷の話題はコロナウイルス感染拡大に関することばかりで少々減入りますが、そんな時こそ笑顔で危機を乗り越えていきたいものです。

コロナ禍の社会生活も丁度3年ほど経ちました。見えない恐怖に不安を抱いていた頃と比べ、少し心に緩みが出てきたのではないかと感じる人もいるのではないのでしょうか。感染者数の推移を表したグラフを見ると、いわゆる第8波における感染者数の増加は第1波とは比較になりません。それにも拘らず、その状態に慣れてしまったのでしょうか、それとも対策が奏功し始めたのでしょうか。今年はインフルエンザの流行も予想され、感染拡大は心配な状況です。

この様な状況下、これまで通りの感染拡大防止の取組を更に徹底していくことが大切なようです。そして、体力の維持管理が重要ですね。そして、ストレスをためないこと。ここで重要なのは「楽しい」と思えることに取り組んでいくことが大切です。筆者は子供達との活動が止まりませんので、私達教師もそのことをしっかりと自覚し、途切れることがないように決して諦めずに対策を講じていきます。

今年の一字「改」

冬休み明け集会当日、子供達に話した話題の一つに、「今年の一字」があります。新聞にも世界のトップが令和5年を漢字一字で表すと…というコーナーがありました。私も今年1年を漢字1字で表すならと考えましたところ、「改」という字に落ち着きました。「改」そのものの意味は「前のものをやめて新しいものに変える。あらためる。前のものがすたって新しくなる。あらためる。」とあります。また、熟語には次のようなものがあります。「改革」「改善」「改新」「改造」「改装」「改心」「改正」「改革」「更改」「朝令暮改」…。

企業等の大きな組織をコントロールする立場にある人達は大概の場合「前例踏襲」を嫌います。私も同じ考えで、例えば過去の成功にいつまでもしがみ付いているとか、自慢しているとか、組織は停滞しているところか後退しているところがあります。私はそれを経験的に感じます。学校現場にある以上、新しいことにチャレンジし、時代に即したアップデートを図り、教師としていつまでも子供達の前に立ちたいと思います。そのため「改」の視点で今年も頑張ります。

小寒大寒

1月6日は二十四節気の一つ「小寒」でした。大寒は1月20日ですね。2月4日の立春までは寒さに注意が必要ということでしょう。

小寒から節分までの30日間を「寒の内」といい、寒風と降雪の時節で、寒さが厳しくなる頃。これから冬本番を迎えます。寒稽古や寒中水泳が行われるのは、この「寒」の時季です。立春が「寒の明け」になります。

では「大寒」について少し紹介しましょう。読んで字のごとく1年のうちでもっとも寒さが厳しくなる頃ですね。立春までが大寒の期間となります。

小寒や大寒に食べると良いといわれているものを紹介します。小寒ではご存じ「七草がゆ」です。温かくて体に優しい食べ物ですよ。では、大寒ではどうでしょう？ 私も知りませんが「卵」だそうですね。寒の内(小寒から立春)に産まれた卵を「寒卵(かんだまご)」、大寒に産まれた卵を「大寒卵」と呼ぶそうです。大寒卵は子供が食べると体が丈夫になり、大人が食べると金運が上がるとされ、とても縁起が良いものと言われているそうです。なんでも、鶏は昔は寒い時期に卵を産めなかつたらしく、当時からとても珍重されていたそうです。寒さに負けることなく産み落とされた卵には滋養があり、強運を持っていると信じられ、縁起物として扱われるようになったそうです。こんな話をしていると、「卵ご飯」が食べたくなってきました。いや、温かい「おでん」？「温泉たまご」も良いですね。考えているとお腹が空いてきました。因みにこの時期の旬の食べ物は「小松菜」「大根」「水菜」「牡蠣」「ワカサギ」等だそうです。どれも美味しそうなものばかりですね。